

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング
【施策番号 27002：海洋エネルギー技術研究開発（経済産業省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 30 日 17：30～18：00
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第三特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、青木議員
外部専門家 4 名（うち若手 2 名）
- 4 説明者：経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部
新エネルギー対策課長 渡邊昇治

5 施策概要

海洋エネルギーを活用した発電技術の実用化に向けての課題となっている高効率化、耐久性の向上、実海域での実証等を多角的に実施し、各種技術シーズの実用化を目指す。

6 質疑応答模様

【相澤議員】

経産省が現実的な問題と結び付けて解決するという意欲を示さないと研究者がついてこないのではないかと感じる。一方で、新たな原理を見つけるのは困難であると感じる。今まで検討してきた原理を組み合わせるとして効率がいいものを探するという位置づけか。それに関連して全体のロードマップが正しいのか疑問である。

【経済産業省】

公募を開始した段階では波力、潮力、海温度差を想定していた。研究者は積極的に取り組んでいて、波力に関してブレイクスルーが近いかもしれないと考えている。施策としてはいくつかの方式を考えているが、アイデアを重視して、現在は縛らないで門戸を広くしておく。選定基準としてはメンテナンスの容易さや塩害対策は大丈夫かといったものになる。

【相澤議員】

どこに、重点をおいているのかを明確にして公募しないといけないのではないかと。

【経済産業省】

研究者の発想を殺さないように、最初はコストには重点を置かないようにしており、発電変換効率やメンテナンスに力点を置いている。

【外部専門家】

公募のかけ方について、発電形式を狙うのか、材質を狙うのかが不明瞭である。実際にはノーメンテナンスとか、塩害対策とか、そういうことが得意な人が手を挙げてくれるのか。長寿命化可能かについても評価軸に入れたらどうか。

【経済産業省】

ご指摘の通り、単に機械を作ることが重要なのではない。評価軸に入れる。

【奥村議員】

波力発電と潮力発電では大きく異なる。潮流海流は適地が限られているので、日本でどの程度設置可能か、コストへの影響などの目安が立つ。一方で波力はアイデア勝負の余地が十分にある。公募の際に要件・評価基準をそれぞれの発電形式によって細かく設定したらどうか。

【経済産業省】

それぞれの発電形式によって狙いが異なるので、ご指摘の点をしっかり考えていく。

【相澤議員】

経産省が要素技術の立ち上げると、文科省とのすみ分けはどうするのか。むしろ、経産省らしい要素技術開発を明確化するほうがいいのではないか。目標設定についてももう少し工夫する余地があると考えます。文科省は海洋エネルギーに関心がある。

【経済産業省】

海洋本部が積極的であって、各省への声掛けを主導している。とくに、海域選定においては他省庁に入ってもらえる必要があるので連携している。文科省はまだ入っていないのなら、是非入れて連携を図る。ほぼ、机上の域ではあるが色々面白い結果が見えつつある。

【奥村議員】

総投入規模は。

【経済産業省】

総額130億である。